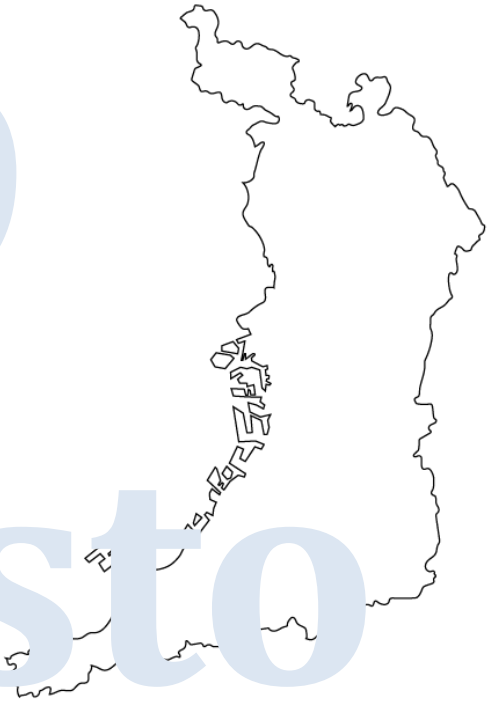
2019

大阪維新の会
岬町マニフェスト

Manifesto



大阪維新の会　マニフェスト2019

大阪府域全体の広域戦略を進めるとともに、
府内各自治体、及び中広域ブロックから総合的に施策立案を展開していく

府内各市町村版

大阪府域版

北摂ブロック版

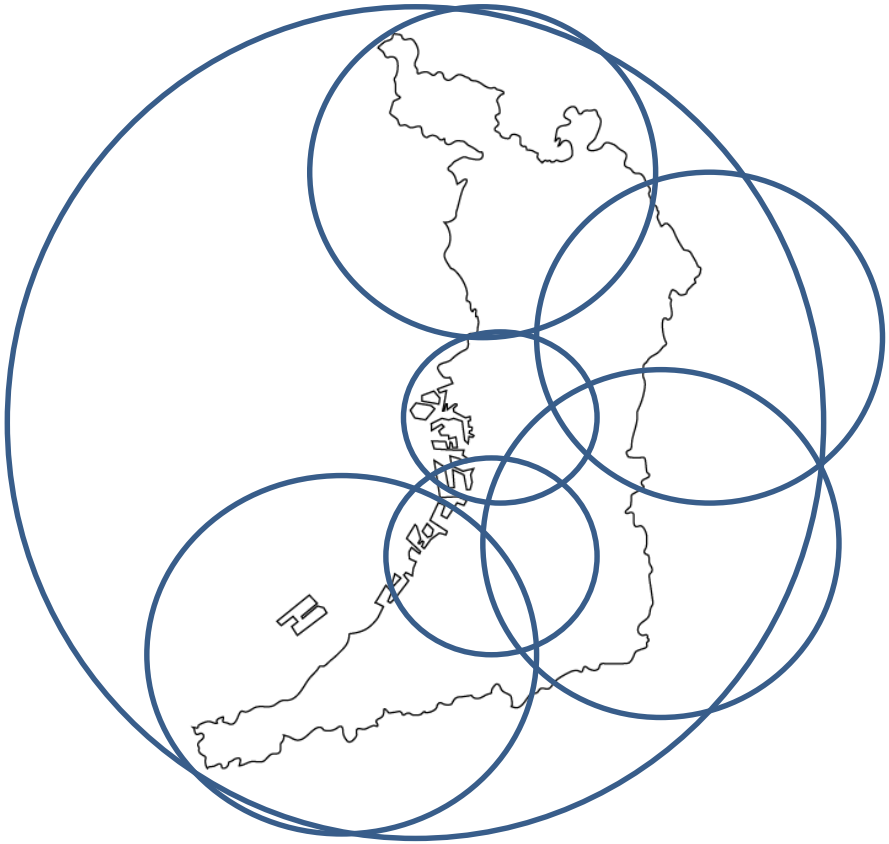
北河内ブロック版

大阪市域版

中・南河内ブロック版

堺市域版

泉州ブロック版



2019統一地方選挙　大阪の成長を止めるな

項　目	具体的施策	現状・課題認識
消防団員の充実、高機能車の配備（災害に強いまちづくり）	●消防団を増やすための広報活動を実施 ●消防団員出動予算2,800円／日の増額 ●高機能車（小型ポンプ・発電機・チェーンソー等を搭載）の導入	●南海トラフの大地震を想定する中、消防団の活動の量と質を向上させておく必要がある。広域行政の消防署はいざというときに多方面では活動できない。地元の住民で組織する消防団の人数確保、作業効率の向上、また高機能車を配備しておくことで、住民の生命・財産を守れる。
自主防災組織による訓練の実施、地域コミュニティづくりの推進（災害に強いまちづくり）	●自主防災組織の活動やコミュニティ作りの補助へ財源を拠出	●災害に備えるため、隣近所や地域の自治区単位でのコミュニティーは不可欠 地域のリーダーや活動拠点を中心に避難所を自主運営できる組織作りを推進
創業支援の強化、事業承継にアドバイザー派遣事業の実施（産業活性化）	●商工会と連携し、後継ぎがいない商店等にアドバイザー派遣し、解決策を探る。新規創業を目指す方にも創業支援補助金の拡充を図る。	●まちの商売人や中小企業が激減し、当町での消費行動が起きない負のスパイラルに入っている。 事業を永年的に持続させることが必要であり、かつ、岬町で新規に創業する方への支援をする。

2019統一地方選挙　大阪の成長を止めるな

項　目	具体的施策	現状・課題認識
健康寿命を伸ばすワダイビクスの指導員育成の拡充、施設の整備（健康づくり）	●ワダイビクス指導員になってもらう方の発掘。 ●ワダイビクスを実践する会場へ踏み台やマット等の備品を配置。	●平均寿命と健康寿命の差が小さければ小さいほど自治体の負担額は少ない。まちで健康寿命を伸ばす体操であるワダイビクスが一定の成果を上げてきている中、ワダイビクスを受けている方と受けていない方では平均年7万円もの自治体負担額が変わるとの研究成果があり、さらなる普及が課題。
どの年代も健康意識を持てるスポーツ活動の推進（健康づくり）	●学校施設の全日開放・施設整備 ●体育団体の統合を含めた事務管理 ●体育施設全体を一元運営する指定管理者制度の導入	●高齢者ばかりが健康意識を持つのではなく、子どもから、青年、中年、リタイヤ前といった、家族ぐるみで健康を意識する活動を行政がサポートすべきである。
学力体力向上へ地域の人材導入し、教員の働き方改革と両立（教育）	●クラブ活動外部指導員を組織化し、教員との連携を図る放課後学習支援員を組織化し、教員との連携を図る	●特に岬中学校生には、通学の遠距離等での制限がある中、学力を向上させなければ行く先の高校がない。クラブ活動は地域の外部指導員に任せ、教員は勉学に集中すべき。また、教員OB等もフル活用し、放課後学習の取組みを進める。

2019統一地方選挙　大阪の成長を止めるな

項　目	具体的施策	現状・課題認識
各公共施設を使用するなど新庁舎建設は最低限で計画（財政）	●大きな庁舎でなく、平屋建ての建築費が安い庁舎の検討同規模の庁舎が30～40億円必要だが、もう25年もすれば岬町人口も1万人を割り組む試算 ●現行の耐震化された小学校も半分以上が空き教室であり、庁舎窓口として有効活用できる	●築52年を経た現在の庁舎は震度6で倒壊する。同規模の物を建直すと大きな予算が必要となるここで働く職員や来庁したお客様の生命を守るために対策が必要
公共交通（バス）事業の見直し、地域乗合タクシーの導入（財政）	●100円固定料金の町バスを廃止し、地域版デマンドタクシーに切り替える。	●横に長い岬町の交通手段は電車と並行する町バス。年間の持ち出しが6000万円を越え、100円で乗ると、岬町から500円の補助が出ている計算になる。
年間を通じて議会版タウンミーティングの実施（議会）	●議会毎に3～4カ所、議員が分かれて報告会に出向く	●町長は年に1度、15カ所程度の町政周知広報活動を行っている2元代表制の議会としても、同程度の広報活動で住民と意見交換する場を設けるべきである